広報伊達 134

発行日　令和元年12月20日
発行者　伊達地区小学校長会
　　会長　高橋　孝
編　集　　同　広報部

《巻頭言》

憧　れ

伊達地区小学校長会副会長
佐々木　義　通
（伊達市立保原小学校長）

「憧れ」。年齢のせいでしょうか，こんな言葉にとんと出会わなくなったようです。私が小さいころは，ちょうど日本の高度成長期。その当時の流行語であり，子どもに人気があるものを挙げた「巨人，大鵬，卵焼き」を思い出します。とにかく大きくなったら，巨人の長嶋選手のようなプロ野球のスター選手か大相撲の大鵬のように強くなって，腹一杯卵焼きを食べようといつも思っていたものでした。まさに，憧れでした。

最近，教育界では教員のなり手不足が問題となっているようです。以前は，１０倍以上もあった本県の教員採用試験の倍率は，今年度ついに小学校は２倍をも切ってしまいました。これは教員の大量退職もさることながら，学校の長時間労働や仕事の過酷さなどのブラックなイメージが揶揄され，教員離れに拍車がかかっているからとも言われています。

ところで，私。学校の先生に対し，少なからず憧れをもっていたものであります。自分が子どものころ。放課後いっしょにソフトボールをしてくれたとき，ホームランを打った先生。けんかをして泣いていたとき，優しく話を聞いてくれた先生。大学では，いっしょに酒を酌み交わしながら面白おかしく人生について語ってくれた先生。（あの先生はいい人だ。あんなふうになってみたい。）

次に，教員に成り立てのころ。ピアノができる先生。板書が上手な先生。子どもがいつもそばにいる先生。（ようし，自分だって。結果は挫折。）

５年くらいが経ったころ。公開で子どもたちと活発に授業を繰り広げている附属小の先生。小教研算数部で「基礎・基本」についてご自分の理論をとうとうと話される先生。職員クラブの２次会で教員の有様を面白おかしく，そして自信満々に語ってくださった先輩の先生。（いつかそんなふうに俺だって。けれどまたまた挫折。）

管理職を夢見るようになったころ。てきぱきと職員会議を仕切り，校務を切り盛りする教頭先生。「佐々木先生，今日の先生の動き最高だったね。お疲れ様。」と声をかけてくださる校長先生。学校訪問の時，分科会で授業のちょっとした努力点を見付けそれをほめながら改善点に気付かせ，さらにそれをよどみなく話される指導主事の先生。（皆さん，何とかっこよかったことか。いつか自分も。いや，さすがにこのときは控えました。）

今年のノーベル化学賞は吉野　彰先生。決定を知らされてテレビに写ったあの笑顔が何ともすてきでした。「むだなことを沢山しないと新しいことは生まれてこない。」と話した言葉もユニークで実に男らしい。（よし，自分もノーベル賞とはいかないまでも，これからだって遅くないはず。そんな生き方ができないものかと思った。）

教員のなり手不足を心配し，「若い方々に教員の魅力を伝えましょう。」といったことを耳にします。そのこともちろん大切ですが，まずは教員が子どもたちから憧れをもたれるようにすることこそ大切だと思うのです。そして，校長も。「校長先生，かっこいいですね。」冗談でもよいのでいつか言って欲しいものです。

教員同士が「憧れ」をもったり，もたれたりすること，これも教員文化の一つだと思うのです。

《 特 別 寄 稿 》

県校長会いわき大会を終えて

第６分科会【研究・研修】

伊達市立石田小学校長　粥　塚　保　則

第４８回福島県小学校長会研究協議会いわき大会が，８月２２，２３日スパリゾートハワイアンズを会場として開催されました。第６分科会【研究・研修】では，研究課題「学校の教育力を高める研究・研修と校長の在り方」を受け，相馬地区校長会，福島地区校長会の発表の後，グループ協議を行いました。

視点１「実践的な指導力を高める校内研修体制の推進」について，次のような成果がありました。

○校長が，学校経営ビジョンを元に，研修の方向性を明確に示し，研修主任に働きかけ，校内の研修を意図的に実施することで，指導力や組織力の向上を図ることができた。

視点２「将来への夢や展望，参画意識をもたせる研修の推進と教職員の育成」については，次のような成果が挙げられました。

○教職員一人一人に自己の役割を意識させ教職員のニーズに応じた研修等の取り組みにより，自己の資質・能力を向上させるための研修意欲を喚起することができた。

協議の中，伊達地区のマトリクスによる取組のまとめ方も発表させていただきました。

第７分科会【学校安全】

伊達市立柱沢小学校長　熊　坂　吉　徳

第７分科会【学校安全】では，研究課題「安全・安心な学ぶ環境づくりと校長の在り方」を受け，福島支会，伊達支会の発表の後グループ協議を行いました。

視点１「自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育の推進」については，校長以下，全教職員が常に「自ら判断し行動できる子ども」を育てる視点をもち避難訓練や安全指導全般を工夫・改善を図りながら見直していくことの重要性について確認しました。このことが，児童の意識の深化，さらに行動の変化を促すという認識を各地区の事例を通して共有することができました。

視点２「地域との連携・協力を図った意図的・計画的な取組の推進」については，校長として，教職員の危機意識や危機対応能力を高めていくことが重要であることを共有しました。緊急時の子どもの引き渡しや通学路の安全確認等の活動の際に，家庭や地域，関係各機関と連携の内容や方法について企画・立案の段階から教職員に参画させ，工夫・改善を重ねていくこと。このことが教職員の自主性や危機対応能力を高めていく上で有効であることを，協議を通して確認しました。

第１０分科会【連携・接続】

伊達市立粟野小学校長　木　村　圭　吾

第１０分科会は「地域と共に生きる学校づくりのための連携・接続と校長の在り方」の研究課題のもとに視点１「家庭・地域等と連携した地域の特色を生かした学校づくりの推進」，視点２「異校種間の成長の連続性を重視した取組の推進」について協議しました。

視点１は耶麻支会が発表しました。実践では，農業科学習を設置し，農家の方を招き，稲作の体験を学ぶことを通して地域を学ぶ実践が発表されました。話合いでは地域を学ぶために神楽クラブを立ち上げ，地域の祭りなどにも参加することで地域とのつながりを強めた事例などが参考になりました。また，学校運営協議会に，地域の方が，人材をコーディネートするという組織があり，大変有効に働いていることが報告されました。

視点２は南会津支会が発表しました。特に，幼稚園と小学校合同の学習発表会や自然体験などで，子どもたちの意欲が高まった実践の紹介がありました。話合いでは，異校種間の連携のよさを職員に理解させる場をもつことの大切さが指摘されました。カリキュラムマネジメントの自校化を図る上で大変参考になりました。

《 先 輩 よ り 》

自分は自分であることをみつけに　ーみなさんお元気ですかー

前伊達市立堰本小学校長　中　野　茂

いつの間にか季節は冬を迎えましたが，みなさんが日々活躍している姿が目に浮かびます。

今春，慣れ親しんできた仕事を離れ，いろいろなことに思いを巡らし，活動する中で，ちょっとした発見をすることができました。

ある幼稚園の祖父母参観で「孫と共に，そして未来をみつめて」の表題で講演をする機会をいただき，自分を見つめ直すことができました。さらには北海道をはじめ各地で，念願だったアーティストのライブに参加することができ，今更ながら同じ時代を歩んできたアーティストの凄さに心を揺さぶられ，涙を流しました。最近では，モータースポーツを観戦し，レーサーの魂や情熱，観客の応援力を間近に感じました。

現在は，次年度から始まる「子どもの心の自立を支える」通学合宿体験事業の立案と実施に向けた仕事をしています。今までの経験を生かし，知恵を絞り，子どもの未来創造に向けて，皆さんの力を借りながら試行錯誤をしています。

これからも，軽やかなフットワークと新鮮な感覚を大切にして，自分なりの未来を創っていこうと思っています。「自分は自分であること」を探して・・・。

子供たちとともに夢を追う

前伊達市立石田小学校長　橘　内　俊　英

誰にも夢がある
それはたとえ小さくとも
その夢がふくらみ
花を咲かせ
立派に実るのを見るのは楽しい

まして　その夢の実現を
少しでも手助けできたら
最高である　　（小林一三氏＊）

教職の道を志してから３８年，なんとか勤め上げることができました。ひとえに，今まで出会った先輩方，同僚，校長会の皆様のおかげと感謝申し上げます。

退職した今，改めて振り返り，自分が何をやってきたのかと自問自答してみるが，答えが見つからない。そのとき，この言葉に出会い，勇気づけられました。自分が実践してきたことは，これだったのだと。今もそれを実践できることに感謝し，幸せを感じながら，今まで出会った方々にこの紙面をお借りして，改めて感謝申し上げる次第です。

＊小林一三氏は，阪急東宝グループの創業者です。

新 た な 職 場 で

前伊達市立月舘小学校長　大　槻　浩　一

４月から，伊達市教育委員会生涯学習課で社会教育関係の仕事に携わっています。時々，職場で校長先生方とお会いして話ができることは，とてもうれしく，ほっとした気持ちになります。

今はだいぶ慣れてきましたが，当初はとまどうことが多くありました。学校現場とはまた違ったリズムやスピード，慣れないデスクワーク，幅広い年齢層の方々と関わる社会教育など，仕事がうまく進んでいるのかどうかが実感できない日もありました。また，ワードでの文書づくりに苦戦したことも…。時間の経過とともに，新しい出会いや活動に喜びを感じるようになってきました。自分の担当している企画や運営を通して，いろいろな講師の方々の話を聞いたり，楽しい活動を経験したりしています。子どもの気分になってバスでの移動学習にも１０回以上参加しています。多くの方々とともに，楽しい時間を共有していけることはすばらしいことだと思っています。とても充実した日々です。これからも，今の立場でできることをがんばり，お役に立ちたいです。

最後になりましたが，校長先生方の益々のご活躍を心よりお祈りしています。

会　津　の　三　泣　き

前桑折町立醸芳小学校長　木　村　政　文

「校長先生。」振り返ると，醸芳の校章の入った運動帽をかぶった懐かしい子どもたちの顔がありました。醸芳小学校の６年生です。私は，会津風雅堂に向かう途中であり，たまたま若松二中前を通りがかった時でした。偶然の出会いに感動と縁の不思議さを感じました。

ところで，職場のある会津には，「会津の三泣き」と言われるものがあります。「一泣き」初めて会津に赴任した人は，よそ者に対する会津人のとっつきにくさにまず一泣きします。「二泣き」やがて会津での生活に慣れてくると，温かな心に二泣きするのです。「三泣き」そして会津を去るときには，情の深さに心を打たれ，離れがたく三度目の涙を流すといいます。これが「会津の三泣き」です。

私事で恐縮ですが単身での生活が９年目に入っていますが，その教員生活最後の２年を桑折町，伊達地区で過ごせたことは，素晴らしい出会い，そして感動もあり充実したものでした。まさしく「伊達の三泣き」です。校長先生方も，それぞれの地で「三泣き」を経験したことと思いますが，出会いに感謝し，ますますのご活躍を祈っております。

近　況　報　告

前国見町立国見小学校長　阿　部　雅　好

伊達地区小学校長会では，大変お世話になりました。現在は，くにみ幼稚園に勤めています。

「園長先生，雲梯をやるから見てて。」

「カエル捕まえることができるよ。」

誇らしげに話しかけてくる子どもたち。日に日に成長し続ける子どもたちに無限の可能性を感じると共に，教育の素晴らしさを再認識し，充実した毎日を過ごしております。

私生活では，休みを利用して，かねてから行きたいと思っていた観光地を訪ねています。

特に，本州と四国を橋で結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」の美しい島々とそれらを繋ぐ橋が織りなす美しい景色には感動してきました。本来ならばレンタカーで一気に走り抜けるところでしたが，一部ではありますが，実際にサイクリングをして，島の暮らしぶりや橋の上からの渦潮の迫力を肌で感じました。

気持ちにゆとりをもって生活することの大切さを感じている今日この頃です。

現職の校長先生方におかれましては，日々お忙しいことと思います。心の休息を忘れずに，益々のご活躍をお祈り申し上げます。

《東北大会報告》

第71回全国連合小学校長会・第59回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会をふり返って

伊達地区小学校長会研究部長　堀　部　　誠

第７１回全国連合小学校長会・第５９回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会が，令和元年１０月１７日（木）・１８日（金）の２日間，秋田県立武道館をメイン会場として開催され，全国から，２４００人を超える校長先生方が集まりました。（伊達支会からは６名が参加しています。）

１日目は，開会式，文部科学省講話，全体会に引き続き，分科会が行われました。２日目は，大会宣言が決議され，引き続き「自ら新しい社会を切り拓いていく子どもたちへ～ふるさと　志　未来創造～」というテーマでシンポジウムが行われました。

文部科学省講話では，「読み・書き・そろばん」に，これからは「情報活用能力」が加わるということが強調されていました。情報活用能力を，言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けています。

また，分科会では，それぞれの研究課題に応じてグループ協議が進められましたが，今回初めて「思考ツール」が活用され，校長として果たすべき役割と指導性に係るキーワードを可視化しながら，考えを広げ，深めることができました。

編集後記

１３４号をお届けします。玉稿をお寄せいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

各校とも新学習指導要領全面実施への準備でお忙しいことと思います。これから基礎・基本の大切さがピックアップされていくようです。学力は書く量に比例すると言われていますので，書くことを重点の一つとして教育課程を編成しようと考えています。